

科目概要

HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 「地域と異文化」

北海道教育大学函館校
准教授 森谷 康文

1.活動概要

「地域と異文化」は、HAKODATEコンシェルジュ養成プログラムの選択必修科目の一つとして、日本国内における多文化の状況を通して、地域社会の状況把握と地域課題に対するとりくみについて理解を深めることを目的としている。この科目の開講にあたって、2018年には、「訪日外国人観光への期待と地域住民の葛藤」として、観光社会学の跡見学園女子大学教

授(当時)須藤廣氏を迎えて、また2019年には「観光と生活空間の対立を超えて」と題して先の須藤氏と北九州市立大学准教授の濱野健氏を講師を迎えて特別講義を実施し、本科目の授業構成や意義について検討をおこなった。通常の授業として開講して2年目の本年度では、6名のゲストスピーカーをむかえ、下記のような構成で実施した。

2.授業内容

| | 授業テーマ | 講師・ゲストスピーカー |
|----|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション:日本の多文化共生とは何か、在留外国人の推移 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 2 | 日本のエスニック・コミュニティ/タウン 東京都新宿区大久保を通して | 申 惠媛 (東京大学教養教育高度化機構社会連携部門特任助教) |
| 3 | 地域社会における定住外国人支援 神戸外国人定住支援センターのとりくみ | 金 宣吉 (神戸定住外国人支援センター理事長) |
| 4 | 倶知安町の国際リゾート産業の現状と課題 | 沼田 尚也 (倶知安町観光課観光係係長) |
| 5 | 国際リゾート(倶知安町)における地域社会多文化共生の現状 | 芳田 国弘 (倶知安町総合政策課広報聴係係長) |
| 6 | 移民の定住における宗教の役割と宗教施設の機能 | 西 千津 (カトリック札幌教区難民移住移動者委員会担当) |
| 7 | 北海道における外国人技能実習生の受入状況と地域の課題～農業分野を中心に～ | 宮入 隆 (北海学園大学経済学部地域経済学科教授) |
| 8 | 多文化社会における「文化」とは何か、地域社会とは何か | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 9 | 日本社会の多文化の様相 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 10 | 高齢化社会と異文化 異文化による介護・異文化に対する介護 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 11 | 地域社会の変容と在日コリアンの生活 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 12 | 定住外国人と子どもの教育編入様式と地域社会資源による補完 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 13 | 外国人労働者と地域社会の変化 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 14 | エスニックビジネスと地域社会 | 森谷 康文(北海道教育大学) |
| 15 | 学生による研究・調査発表 | 森谷 康文(北海道教育大学) |

さらに、第3回及び第7回は、特別講義としても開催し、ビデオ会議システムを利用したオンライン配信をおこなうことで、ひろく市民への参加を呼びかけた。行政をはじめ市民から4名と函館市内と東北地域から6名の高校生の参加があった。



授業では、学生が日本社会の「多文化」的状况をとらえる際の理論的枠組みの理解をすすめることを重視して「文化本質主義と非本質主義」や日本の多文化共生施策の批判的検討などをおこなった。さらに、ゲストスピーカーによる各地域の多文化状況や地域課題への取り組みの紹介を踏まえて、学生が「地域と異文化」という授業名に関連するみずから設定したテーマを調査しまとめるという課題を課している。

履修した学生からは、「授業でとりあげられた地域の状況について詳しく学ぶことを通して、日本社会の多文化的状況を知ることができた」という地域課題の把握とともに「日本の社

会の状況を分析するために必要な社会学の理論について学んだ」という感想が寄せられている。とりわけ行政や市民団体でのとりくみを聞く機会、また北海道教育大学にはない「農業経済学の視点から外国人労働者」を分析したゲストスピーカーの講義は学生には新鮮なものとなり、学ぶ意欲の向上につながったと感ずる。こうした適時の外部講師の採用は今後も実施することが望ましいと考える。

3.「地域と異文化」の今後の展開について

「HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム」が2021年4月より「国際地域イノベーター人材養成プログラム」に発展・継承されることから、地域と異文化はより地域社会における「多文化」状況の理解とそれに関わる地域課題の分析が求められることとなる。そのため「地域と異文化」は、「多文化社会論」として国際地域学科地域協働専攻地域政策グループの専門科目に、また国際地域イノベーター人材プログラムの共通科目である日本語学習支援支持科目の選択必修科目に位置づけられる。予算の都合からこれまでのような多彩なゲストスピーカーを迎えることは難しいが、担当教員の調査研究の充実と社会情勢にあわせた適時のゲストスピーカーを招くことで授業の充実を図っていきたい。さらに、今回試験的に実施したオンライン配信による一般市民の授業視聴で参加した高校生からは、今後もこうした機会があれば参加したいとの感想もあったことから、積極的な発信ができるように検討をすすめていきたい。